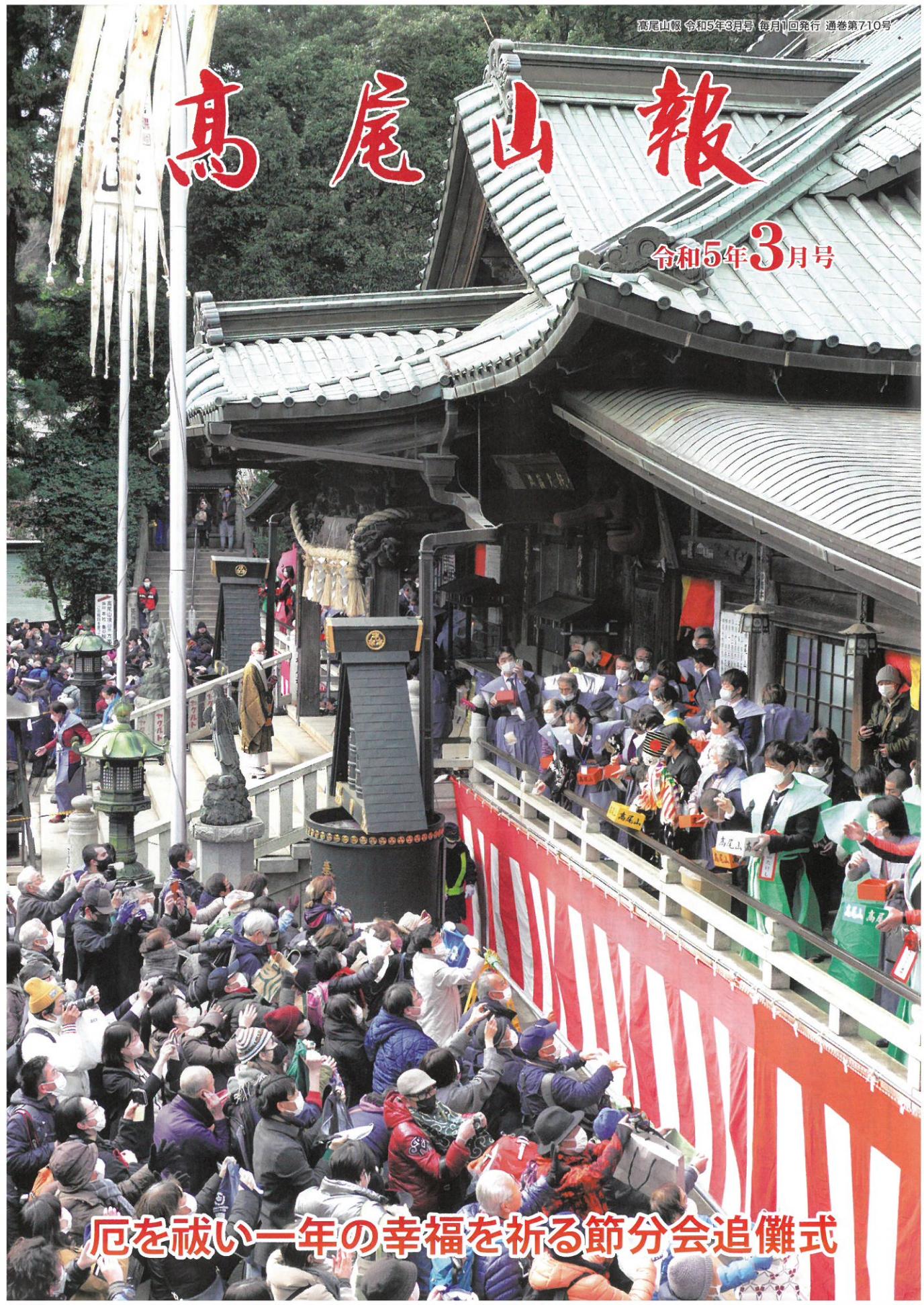
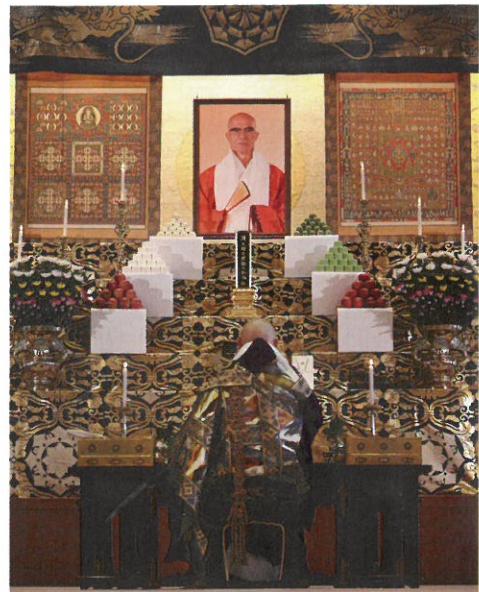


高尾山報

令和5年3月号

厄を祓い一年の幸福を祈る節分会追儺式





当山佐藤秀仁貫首が大導師を勤め
厳かに法要が執り行われた

橋本照稔大和尚三回忌法要
於・成田山新勝寺光輪閣
光輪の間

去る二月十日(金)大本山成田山新勝寺光輪閣
光輪の間に於いて成田山新勝寺中興第二十一世御
貫首橋本照稔大和尚三回忌法要が各成田山別院
主監諸大徳職衆により執り行われ、当山佐藤貫首
が大導師を勤められました。

法要には、真言宗智山派宗務総長芙蓉良英僧正、
川崎大師平間寺御貫首藤田隆乗大僧正御名代、執
事長出井宏樹僧正をはじめ成田山法類寺院諸大
徳、成田山総代、御篤信が参列され大和尚の御遺
徳を偲び御焼香されました。

照稔大和尚は、平成十四年に成田山中興第二十
一世の法燈を継承されました。爾来、成田山発展の
為にご尽力なされました。が、令和三年二月十八日
世寿九十六歳にて御遷化されました。謹んで橋本
照稔大和尚の仏果増進をお祈り申します。

(『今昔物語集』)

高尾山薬王院中興第三十一世 山本秀順大和尚ご命日

二月四日は、先々代貫首・
山本秀順大和尚の御命日に
あたります。

大和尚は平成八年二月四
日、世寿八十四歳にて遷化さ
れました。

当日は節分を過ぎ春へと
向かう陽気の中、歴代先師
墓地において、佐藤貫首導師
のもと、亡き大和尚の御冥福
を祈り墓前に香を手向け、懇
ろに御回向申し上げました。



これらを見ると、限りなく喜び感激なさつて「このが禅定の靈窟(心安まる靈妙な地)なのだ」と思われました。今まで「あの大野神社は高野明神と申します」と語ると消え失せていました。

(『今昔物語集』)

高野山は、はるかにかけし
はるかにかけし
いにしへの
三鈷の松に
有明の月

光よ
高野山上の「三鈷の松」は、当初から数えて
いた「松」は、他の伝承で
は「松」として語られています。

これらを見る日を待ち望まれ
ていたでしょう。神が治め
て歩み始めたのです。

なお三鈷が刺さつて
なる聖地)としての歴史と
根本道場(修行の中心)と
して語られています。

春の息吹が満ち満ちて
きました。陰暦二月の異
名には、「弥生」の他にも
「花月」「桜月」「花見月」
など草花の芽吹きを感じ
させる名前が並びます。
花が咲いたという知
らせを「花信」と言い、春
の初めに花の開花を告
げる風を「花信風」と呼
びます。

心あらば
問はましものを
梅が香に
たが里よりか
にほひ来つらん

『新古今集』

源俊頼朝臣

(もしまも心があるなら、
梅の香に聞いてみたい
よ。いつたいあなたは誰
のいる里から匂つて来た
のかと)
かわいらしい梅の花
は、うららかな光
風が運

なでくるのでしょうか。
それは芳しい香りとど
もに忘れかけていた懷
かしい記憶も蘇らせて
くれようです。

色香をば
思ひも入れず
常ならぬ世に
よそへぞ見る
『新古今集』

花山院御製

(私は色香に深く心を
留めたりはしない。梅の
花の咲き散る姿に、この
世の無常を重ね合わせ
て眺めているよ)

この歌にある「常なら
ぬ世」とは「無常の世」
(常に生まれたり滅びた
りして変化しているこの
世)を表しています。人の
命と同じように、咲いた
花は惜しまれつつも必ず
散ります。「春一番」のよ
うな南からの暖かな強

のりの水茎
大正大学講師 高橋秀城

(129)

風に花びらが舞つても、
それは自然のありのまま
の姿として、しつかりと
思います。



春を迎える様々な草花が芽吹く

佛具をご覧になつたこと
はあるでしょうか。「三
鉢杵」は杵の形をとつて
いて、「金剛杵」と呼ばれる
ものの一種です。両端の
爪状の部分(鉢)の数に
よつて名称が変わり、三つ
股に分かれているものを
「三鉢」五つに分かれ
いるものを「五鉢」、分か
れずに尖つているものを
「独鉢」と言います。お顔
をお参りした際に、お顔
をやや右に向けて座られ
ているお大師さまの御影

(肖像)を拝めたことの
ある方もいらっしゃるか
と思いますが、そのお姿
の中で右手首をひねつた
ようにお持ちになられて
いるのが「金剛杵」です。
ちなみに、独鉢・二鉢・
五鉢についても例えば
ある方がいたりするが、
そのお姿の中でもう一つ
江戸時代の書物に「物を
成就するには五股を用
ひ、加持するには三股を
用ひ、念誦には独股を用
るなり」(『密門雜抄』)と
見えます。「金剛杵」はさ
まざまに用いられ、その
ときどきに応じた使い分
けがなされています。
お大師さまの伝記に
話をしてしましよう。
『今昔物語集』の空海伝は次
のように続きます。
お大師さまは、そこか

から投げた三鉢の場所
を問われると、山人は「こ
こから南に平らな湿原
があります。そこがお尋
ねの聖地です」と答えた
のでした。翌朝、山人はお大師さ
まと連れ立つてその場を
指しました。山人は道を
すがら「私はこの山の王
です。すみやかにこの領
地をあなたに差し上げま
しょう」と囁きました。
山の中に百町(約一〇
キロメートル)ほど入る



豆をまく八王子車人形・西川古柳座と八王子芸妓衆の皆様



佐藤貫首による「福は内」の大音声



落語家の柳家小さん師匠、女優の丘みつ子さん、歌手の北山たけしさんも「福は内」



大本堂前にて人気者達から福豆を頂く大勢の人々



昨年最年長で幕内最高優勝を遂げた玉鷲関(左)と師匠の片男波親方



仁王門階段では佐藤貫首と共に歳男と歳女の皆様の記念撮影が行われた

高尾山節分会追儺式

無病息災を願い響くは「福は内」の大音声

高尾山釈尊涅槃会

二月十五日(釈尊入滅の日)

初午福德稻荷祭
二月五日(日)



お釈迦様の真身舍利が納められる仏舍利塔



お釈迦様の御遺徳を偲び法事が執り行われました

お釈迦様が入滅されたと伝わる二月十五日、高尾山上にて釈尊涅槃会が行されました。初めてお釈迦様の真身舍利が納められる有喜苑・仏舍利塔内において佐藤貫首導師のもと法要が営まれました。この真身舍利はタイ王室を通じ、タイの寺院、ワット・パクナムより、青少年の健全な育成を願い分贈されており、昭和三十一年より高尾山の地に奉安されております。その後、高尾山書院内に飾られた「高尾涅槃図」の前でお釈迦様の御遺徳を偲び懇ろに御供養されました。高尾涅槃図には、お釈迦様が入滅された時の様子が描かれており、天狗や紅葉の木なども描かれております。

初午福德稻荷祭
二月五日(日)



稻荷社には奉納された五色旗が飾られます



花材:リナリア

いけばなの心③

華道教授 佐藤 宗明

今回ご紹介する作品は、小さいお花から受けた感動をありのまま表現したいという思いがきっかけで制作したものであります。

使用した花材はリナリアという植物です。リナリアは姫金魚草とも呼ばれ、春の三月ころから夏にかけて花を咲かせます。写真では分かれています。

花材:リナリア

りづらいかもしれません。が、一番長い茎でも二十cm弱、スマートフォンよりも少し長いくらいの非常に可愛らしい植物です。

花器は作品全体のボリュームと雰囲気を考えて、細く、背の高いものを選んでみました。

いけばなは元々、床の間に飾るものとして発展してきました。いけばな

作品がある場所をイメージすると床の間や和風な場所が思い浮かぶのではないかでしょうか。

ただ、近年は花材の種類も多岐にわたり、生ける場所も様々です。

この作品の花形は生花正風体です。リナリアの細く柔らかい茎やお花を、少ない花材で軽やかに表現するのに『副外』という手法を取り入れました。小さい花から受けた心の動きを素直に表現できるというのも、いけばなの魅力の一つです。

いろは 天狗の落し文②

の 時にはないと
伸び伸び心
張り詰めた系
切れやすい

人の心には強い部分があると同時に、弱い部分もあるのです。緊張状態では常に集中している為に間違いを起こすことが少ないかもしませんが、ずっとその状態を維持し続けると、いつか限界が訪れてしまうことでしょう。

そうしたストレスや緊張を抱えることが多いと、自律神経のバランスが乱れ、交感神経が優位になつてイライラや不眠、肩こり、頭痛など心身ともに体調を崩しやすいと言われています。

ただ、「寛ぐ」と言っても決して難しく考えたりせず、ゆっくりお風呂に浸かつたり、ぼーっとする集中することも大事なことです。が、時にはのんびりしたり、寛いで心に余裕を持つことを忘れてはいけません。

そんなことから始めてみましょう。

去る二月五日、飯縄権現堂（御本社）脇の福徳稻荷社において高尾山初午福德稻荷祭が行われ、佐藤貫首導師のもと、家内安全・身体健全・商業繁昌・五穀豊穣などが祈願され、参列の御信徒の皆様と共に祈りが捧げられました。

初午の法要是、京都伏見の稻荷神社の祭神が、和銅四年（七一二）の二月最初の午の日に降臨し鎮座されたと伝わるため、毎年初午の日に行われております。



ここで弘法大師が説いたのは、大日如来は姿を見せないが、宝のような密教の教えによつて一切衆生を救つてくださる。それは如意宝珠が多くの宝を生み出すのと同じである。言い換えれば、密教の具象化が如意宝珠ということである。

寺は教王護国寺とも呼ばれ、金剛峰寺と並んで真言宗の総本山となる寺院である。その住職が如意宝珠を守り尊ぶべきことを以下の如く述べる。原文の書き下しに続いて拙訳を載せる。

「夫れ以れば如意宝珠は、是れ無始より以来、龍肝鳳脳に有るにあらず。自然道理の如来の分身なものなり。或いは偏に鳳肝龍脳にありと云云。是れ大なる虚言なり。所

「そもそもよく考えてみれば、如意宝珠は始めのない（永遠の過去より）以来（今にいたるまで）、龍の肝臓や鳳の脳（の中にあるのではない。（如意宝珠は）自然道理の（釈迦牟尼）如來の分身である。（それなのに）ある人は（如意宝珠は）ひたすら鳳の肝臓や龍の脳（の來の分身と云ふ。惟れ眞実の如意宝珠なり」（同前七七頁）

ある。如意宝珠はブツダの分身であるから、ブツダより格下の龍や鳳の中にあるはずはない。それどころか、如意宝珠はブツダそのものと大師は説く。ここでいう自然道理とは、ブツダが縁起の法により体得した真実にしてありのままの世界であり、ブツダ自身である。如意宝珠は、そうしたブツダの分身であるとする。この一節に続き、「御遺告」はさらに深く

如意宝珠について以下の
ごとく述べる。
「未だ萌さざる事を定
む。我が心に月輪を觀
ぜよ。輪の上に阿字を觀
ぜよ、阿字変じて如意
宝珠となる。宝珠法界
に遍満す。口に阿字を誦
せよ。疲れるに随つてす
なわち寝ねよ。印は卒都婆
の印を用ゐよ」(弘法
大師全集)第四卷、筑
摩書房、一九八四年、九
七(九八頁)

如意輪觀音（その1）

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

觀音菩薩の宗教

(63) **cintāmani**) 白崎頭成が示したアヴァロー・キティー・シュヴァーラ・チンターマ

本誌59号で弘法大師・空海が聖徳太子を本地とする説を紹介し、聖徳太子が觀音菩薩の化身であることから弘法大師と觀音菩薩が結びつくことを述べた。さらに前号までに水難や海難救助の菩薩としての觀音菩薩を考察し、百濟觀音について論じてきた。今号からは、弘法大師によって齋された密教を中心として尊崇された如意輪觀音を見てみたい。鎌倉時代初期、元久二年（一二〇五）に著された円運の『如意輪講式』などでは、聖徳太子の本地を如意輪觀音とする説も見出される（久保田収「聖徳太子觀音化身説の源由」「密教文化」32号、一九五六年）、聖徳太子と空海との関係

を考えれば、如意輪觀音と弘法大師との結びつきも推測される。その意味で如意輪觀音を考察することとは、日本佛教の系譜の一つを辿ることにもなるう。

スクリット語の名称を推定したものである。これらに見えるチャクラヴァルティ(ン)は、仏法を象徴する輪がどこへでも転がっていくことを意味し、漢訳では「転輪」などとされる。この「輪」は如意輪の輪にあらわれている。アヴァローキテーシュヴァラはすでに見たように「見ることが自在」、「観自在」の意味である(「觀音菩薩の宗教」⑧)。

チントーマニは、如意輪観音を他の諸尊と区別する最も特異的な語で、チントーとマニの二語からなる。チントーとは「考え」「思考」で、マニは「宝珠」を表す。チントーマニと熟することにより、「願いを叶える宝」を意味し、それが漢訳で「如意」と訳されるのである。

にとつて如意宝珠が重要な意味を有していたことは、『御遺告』に二ヶ所に亘って述べられている。『御遺告』は弘法大師が入定の六日前に弟子たちが守るべきことを告げた真言宗徒にとつて重要であるのみならず、弘法大師の密教を知る上でも不可欠の書とされてきた。

『御遺告』第二十一条には、金剛薩埵が龍猛菩薩に語る言葉として如意宝珠が記される。真言宗では「付法の八祖」として大日如来から空海にいたる師弟の系譜を挙げる。このうち金剛薩埵と龍猛は第二祖と第三祖である。

金剛薩埵は言う。

「また金剛薩埵、龍猛菩薩に宣べたまはく、『伏

はさず。然れども万宝を出生して一切衆生を利益す（後略）』（弘法大師全集）第八卷、筑摩書房一九八五年、七一頁）

現代語で大意を示せば以下通りになろう。

「慎んで考えるに、大日如来は一切衆生のためには密教をお説きになつた。すべての衆生でその利益を受けぬものはない。言つてみれば、この（密教）法は如意宝珠のようである。なぜ如意宝珠にたとえるのかというと、（大日如来は）その名称を聞いても実際の姿を現さないからである。しかし（姿を現さないのに大日如来は）あらゆる宝を生み出して、（その功德によつて）一切衆生に利益を与えるのである」

高尾山年代記

歴代山主の事跡をたどる

明治大学博物館 外山 徹

39

十七世秀興2 大覺寺方廣院の兼帶

前号では宝暦三年（一七五三）の飯縄權現社拝殿・幣殿再建、翌々年の清滌開創と居開帳の執行という動向を見た。薬院文書に遺る「永代護摩家名記」によると、ちょうどこの頃から護摩檀家の居住域が、現在の埼玉県入間市・飯能市、日高市や東京都世田谷

区・多摩市といった方面へ伸張する傾向にある。

続く寺勢の拡大

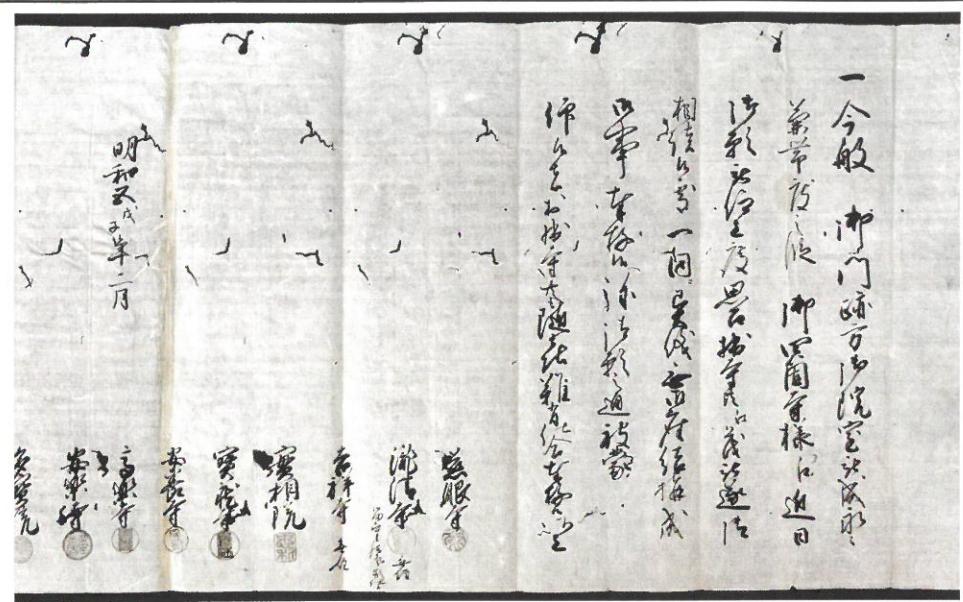
宝暦の頃は、未だ八王子が絹市場として存在感を示す以前であるが、こうした北方・東方への檀家圈伸張の背景には、人と物資の往来の増加傾向が考えられよう。この後、

令和5年3月1日 第710号

高尾山報

(11) 令和5年3月1日 第710号

高尾山報



院室兼帶について異議なき旨の門末一同連印(部分)
法政大学多摩図書館寄託

寺格上昇への志向
一方、薬王院の側としてはどうか。たびたび言及するように一八世紀半

たはづで、先学の指摘を交えつつそれを読み解いてみたい。

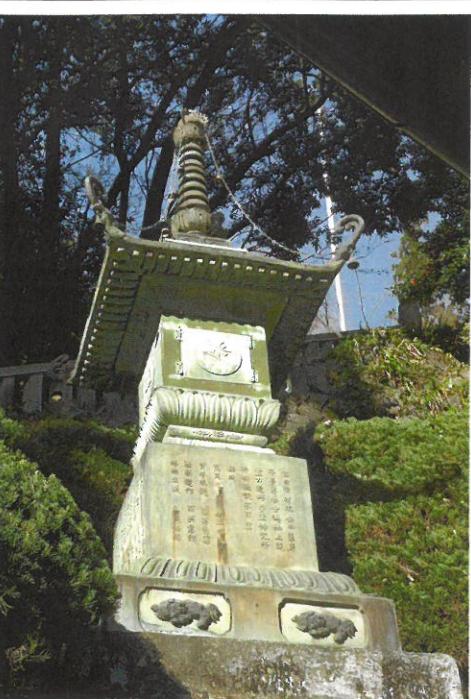
関東の寺院の院室兼帶は一八世紀後半に顕著で、この時期の大覺寺側からのたらきかけが推測される。関東の寺院の院室兼帶は、一八世紀後半に顕著で、この時期の大覺寺側からたらきかけが推測される。

薬王院はなぜ大覺寺と関係を取り結んだのだろうか？ 大覺寺・薬王院それぞれに意図が存在し

れている。竹内式部の宝暦事件、山県大弐の明和事件と、尊王論者に対する弾圧事件が発生し、その背景とされる朝廷による権威回復志向という動向の一環として、皇統に連なる門跡寺院が自らの影響力を東国に及ぼそうとしたとの理解である。

また、冒頭に述べたよ

うに、領主層の経済的苦境は武家に限らず、公家や寺院にとっても切実なものであった。したがって、自らの財政基盤を安定させることも、領主層の経済的苦境は武家に限らず、公家や寺院にとっても切実なものであつた。したがつて、江戸の兼帶寺院には庶民信仰を集め神社の別当引き続いて発生する大覺寺門主との儀礼行為に係る。実際、院主への就任時、寺も目立ち、経済力の裏付けがあつてこそ院室の兼帶は可能であつた。



宝暦8年建立の宝篋印塔

するまで七日間護摩を焚き続ける一大行事である。恐らく門末寺院も結衆として参加した大々的なものだつただろう。その間、参詣者の様子が「おびただしき」と二度記される。

翌宝暦八年には、大本堂に向かつて左手奥の斜面に現存するまで七日間護摩を焚き続ける一大行事である。恐らく門末寺院も結衆として参加した大々的なものだつただろう。その間、参詣者の様子が「おびただしき」と二度記される。

翌宝暦八年には、大本堂に向かつて左

手奥の斜面に現存す

る。三月五日に結縁するまで七日間護摩を焚き続ける一大行事である。恐らく門末寺院も結衆として参加した大々的なものだつただろう。その間、参詔者の様子が「おびただしき」と二度記される。

宝暦八年は春に近隣へ出開帳、九月の十万枚に十萬枚護摩始り」とある。三月五日に結縁する。三月五日に結縁するまで七日間護摩を焚き続ける一大行事である。恐らく門末寺院も結衆として参加した大々的なものだつただろう。その間、参詔者の様子が「おびただしき」と二度記される。

宝暦八年は春に近隣へ出開帳、九月の十万枚に十萬枚護摩始り」とある。三月五日に結縁するまで七日間護摩を焚き続ける一大行事である。恐らく門末寺院も結衆として参加した大々的なものだつただろう。その間、参詔者の様子が「おびただしき」と二度記される。

宝暦八年は春に近隣へ出開帳、九月の十万枚に十萬枚護摩始り」とある。三月五日に結縁するまで七日間護摩を焚き続ける一大行事である。恐らく門末寺院も結衆として参加した大々的なものだつただろう。その間、参詔者の様子が「おびただしき」と二度記される。

宝暦八年は春に近隣へ出開帳、九月の十万枚に十萬枚護摩始り」とある。三月五日に結縁するまで七日間護摩を焚き続ける一大行事である。恐らく門末寺院も結衆として参加した大々的なものだつただろう。その間、参詔者の様子が「おびただしき」と二度記される。

宝暦八年は春に近隣へ出開帳、九月の十万枚に十萬枚護摩始り」とある。三月五日に結縁するまで七日間護摩を焚き続ける一大行事である。恐らく門末寺院も結衆として参加した大々的なものだつただろう。その間、参詔者の様子が「おびただしき」と二度記される。

宝暦八年は春に近隣へ出開帳、九月の十万枚に十萬枚護摩始り」とある。三月五日に結縁するまで七日間護摩を焚き続ける一大行事である。恐らく門末寺院も結衆として参加した大々的なものだつただろう。その間、参詔者の様子が「おびただしき」と二度記される。

た信頼の興隆を受けて次の動きに出る。

大覺寺方廣院兼帶

明和五年（一七六八）、六月二七日、薬王院は大覺寺の院室（子院）である方廣院院主を兼帶することについて、江戸四箇寺の認可を得た。これはどういうことか。

京都嵯峨野の名刹

覚寺は、貞觀一八年（八七六年）に淳和天皇の皇后正子内親王によって、亡父嵯峨天皇の離宮を伽藍に創建された。皇族から

て勧進をおこなった結果、それが実現したと記されている。銘文には八年とあるが、その造立が大々的に披露されたのは翌九年のことだった。二月の十万枚護摩供に引き続い

て三月一七日に宝篋印塔の供養が執行されている。

二六〇年余を経て現在は一面に緑青を吹いている

が、建立当初は金色に輝いていたはずである。この供養は五日間にわたり、

日記には参詔者の「たくさん」が繰り返される。

秀憲による発願が銘文に刻まれたことに表れて

いるが、この時期の盛んな行事執行には、隠居の身とは言え、秀憲の積極的な関与が推測される。

日記には参詔者の「たくさん」が繰り返される。

秀憲による発願が銘文に刻まれたことに表れて

いるが、この時期の盛ん

な行事執行には、隠居の身とは言え、秀憲の積極的な関与が推測される。

日記には参詔者の「たくさん」が繰り返される。

秀憲による発願が銘文に刻まれたことに表れて

高尾山が大好きなイギリス人
四年前、通っているジムと高尾山で一日置きに出会う外国の方と眼が合った。その時以来、挨拶して言葉を交わすようになつた。

お話を聞くと、マイケル・シンプソンさんというお名前で、普段はロンドンに住んでおり、八王子市内の「めじろ台」にある奥様の実家（空き屋）の風通しのため、一年に二、三回来日されているとのことでした。最近のコロナ禍では、何度か来日を試みたものの実現は難しく、「高尾山に登りたい」とメールで連絡がありました。

昨年十一月になりやつと来日が叶い、今回は暫く日本に滞在される予定とのことです。私が「高尾山にそれだけ登るのなら、健康登山に挑戦してみては」と勧めています。

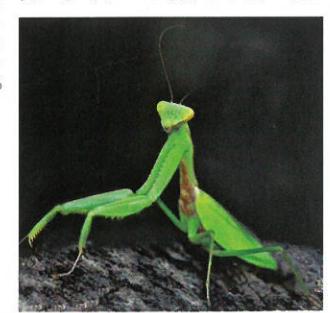


健康登山に訪れたマイクさん

日本には固有のハラビロカマキリという樹上性の種がありますが、ムネアカの方が一回り大きく、侵入した地域ではハラビロが激減または絶滅に追い込まれているようです。

この二種はとてもよく似ていますが、ムネアカはその名の通り胸の部分がピンク色で前脚の鎌の部分の基部側面にハラビロは目立つ突起が三個、ムネアカは鋸状に突起が並ぶので見分けができます。

同じ樹上性であり大型で飛翔力も強いムネアカがハラビロを追い詰めていて、やがてはオオカマキリやコカマキリに深刻な影響を与えると感じます。外来種の侵入は生態系を乱すため看過できません。昆虫の宝庫高尾山でもムネアカが増えていくよう対応を考える必要があります。



高尾山の昆虫 ムネアカハラビロカマキリ

161

雷乃发声 「かみなりすなわちこえをはづす」
二月二十八日～四月三日頃
季節の変わり目には気候が不定になります。多く雷が鳴るようになります。雷は怖いイメージですが、「雷の多い年は豊作になる」という言い伝えもあるように、昔は雷の光が稻を実らせ育てる考えられていましたそです。

今年の風物詩
ひなあられ
桃の節句に食べる「ひなあられ」は、三、四色の淡い色の可愛らしいお菓子です。
ひなあられの色には、自然の恵みを頂き、女の子が健康に育ちますようにとの意味合いが込められております。
地域により材料に違いがあり、関東では「うるち米」、関西では「もち米」を原料としております。

季節の絵手紙 「山茶花」 八王子市 石井絢子 様



一步一歩煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

十四段 むやみに目立とうとしない

自分が他人より優れている、特別だと考へてしまうことはあるかもしれません。ただ口や態度に出したりすることは慎重になるべきでしょう。言葉には責任が生じます、自分ができもしないことを言うことは信頼を損ねることに繋がります。

◎ 健康登山の皆様へ
高尾山報投稿の御案内
御護摩受付所では、皆さまの『健康』に関する思いや思い出・習慣、又は『健康登山』を通じて経験した出来事などの、心温まるお話を聞かせて、多くの方々にお届けできますように、御護摩受付所に「投稿箱」を設置致しまして、皆様から投稿頂いたお話や作品を、『高尾山報』に掲載させて頂いております。

その他、おもしろい体験・変わった出来事・ poem・俳句等どんなお話を頂いたお話を『高尾山報』に掲載させて頂いております。是非お聞きください。御協力宜しくお願い致します。

※ 投稿頂きました作品は全て掲載できるよう努めますが、当山の判断で掲載しない場合もあります。また、多くの方に投稿頂きました場合、掲載までお時間を頂く場合がございますることを御了承下さい。

期限はございませんので、御自分のペースでお読みください。
また、一冊に付き二十枚スタンプを押すペーパーがあり、終了したことを満行と言います。満行されますとお祝い膳として、精進料理の御接待や健康登山者限定の記念品などと交換もできます。

帳面………七百円
スタンプ…百円

登山者の皆様の励みになれば、今までには約五万人の方々が会員となられています。

成十一年から健康登山を始め、いまでは約五万人の方々が会員となられています。

登山者の多い山として知られている高尾山。

人々が訪れ、「世界一登

山者の多い山」として知

られています。

年間約二百八十万人の

人々が訪れ、「世界一登

山者の多い山」として知

られています。

成十一年から健康登山を始め、今までには約五万人の方々が会員となられています。

登山者の多い山として知

られています。

人々が訪れ、「世界一登

山者の多い山」として知

られています。

成十一年から健康登山を始め、今までには約五万人の方々が会員となっています。

登山者の多い山として知

高尾山報

毎日の
お護摩奉修時間

(11月1日~4月14日まで)

午前6時00分

〃 9時30分

〃 11時00分

午後0時30分

〃 2時00分

〃 3時30分

ご講中・団体等御相談
下さい。

- 三〇日 奥之院開扉供養(十時奥之院)
 高尾山とんとんむかし
 「語り部の会」
 (十二時半山麓不動院)



- 二二日 花まつり(仏舎利塔)
 月例写経会(十三時山麓不動院)
 八日 (十時山麓不動院)

尚、法要終了後に百味の
 お札を授与致します。
 御志納金 一口三千円以上

- 四日 御詠歌勉強会
 八日 滝びらき
 五日、十七日、二十九日 弁天様御縁日

四月行事日程



登山だより

二十一日

飯繩様御縁日
 神徳報謝百味飲食供
 (九時大本堂)

○御本尊様の日々の御
 加護に感謝し、百味のご
 供物を捧げて供養する
 法要です。

皆様の御志納を受け付
 けておりますので、ご希望
 の方は大本堂までお申し
 出下さい。



※感染対策と体調管理に留意の上
 ご参加下さいますようお願い申し上げます

高尾山春季大祭お稚兒募集

昔から「子宝」という言葉がありますように、ご家庭は子孫の成長によって、子々孫々に受け継がれ発展していくものです。私達が次代を託すという意味で

皆様のお子様が高尾山御本尊飯繩大権現様の御加護の下、健康に、逞しく成長されますよう、お稚兒練り供養にご参加をお勧め申し上げます。

定員 百名(定員になり次第締め切らせて頂きます。)

参加料 お稚兒 七千円 付添人 千五百円
 お申込・お問い合わせは 高尾山稚兒係まで

☎ ○四二一六六一一一一五

大護摩供法要(大本堂) 柴燈大護摩供(有喜苑) 四月十六日(日)

訂正とお詫び

『高尾山報』一月号及び
 二月号の十九ページ上に
 掲載いたしました『高尾
 山報助成金志納者御芳
 名』にて、御芳名に誤りが
 ございました。

(正) 川越市 倉橋 奈都子
 (誤) 川越市 倉橋 夏子

(正) 八王子市 藤原 ミサ
 (誤) 相模原市 藤原 ミサ
 茲に謹んでお詫び申し
 上げ、訂正致します。

下記のQRコード
 から高尾山薬王院
 のホームページに
 アクセスできます
<https://www.takaozan.or.jp>



発行所 東京都八王子市高尾町2177
 大本山 高尾山薬王院
 郵便番号 193-8686
 電話(042)-661-1115㈹
 FAX(042)-664-1199
 発行人 犬山秀康
 編集人 菅井秀倫
 印刷社 ヒラツカ印刷社
 每月1回1日発行
 1部50円